

(別紙様式)

令和5年度学校自己評価システムシート (県立大宮北特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒が明るく、豊かに、たくましく成長し、社会にはばたく力を身に付けられる学校
--------	--

重点目標	1 ICTの効果的な利活用をさらに進めるとともに、一般学級・重複障害学級の教育課程の特徴をより明確にした授業を実践する。 2 安心安全で、わかりやすく、より豊かな学びが実現できる学習環境を整備する。 3 今年度スタートする学校運営評議会(コミュニティスクール)を活用し、「社会に開かれた教育課程の実現」の観点から新たな取組を企画する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標 (2 月 1 日 現 在)							
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	今年度からは、高等部生徒もBYODにより、1人1台のタブレット端末が整備される。ICTの効果的な活用事例の集約、新たな教材開発、他校の先進事例についての情報収集に組織的に取り組む必要がある。	ICTの効果的な利活用の推進と授業改善	各教職員が「ICTの利活用」を加味した実践に取り組む。 【全教職員】	90%の教職員の自己評価シートに「ICTの利活用」に関わる内容が盛り込まれ、実践されたか。	90%以上の教職員の自己評価シートにおいて、利活用に関わる内容が盛り込まれ、その実践ができた。	A	多くの教職員、ほとんどのクラスによるICTの利用がされている中、データの共有を行い、効率的・効果的な活用を図っていく。
	限られた教室数、狭隘な学習環境の中で、一般学級・重複障害学級が、それぞれの教育課程に基づき、いかに効果的な指導を展開できるか。どんな工夫ができるか。	一般学級・重複障害学級それぞれの教育課程の特徴を反映した授業実践	限られた教室数、狭隘な学習環境の中でも、各学部で重複障害学級の教育課程の特徴を反映した授業を工夫し、実践する。 【各学部】	重複障害学級の教育課程の特徴を反映した授業実践について、各学部が2つ以上の具体例を示すことができたか。	重複障害学級の教育課程の特徴を反映した授業実践について、自立活動を中心に、各学部が2つ以上の具体例を示すことができた。	A	次年度以降も限られた教室数、狭隘な学習環境が考えられるが、その中でも、個々に応じた重複学級の教育課程の実践が必要になってくる。
2	限られた教室数、狭隘な学習環境の中で、日々の児童生徒の安全をどう確保していくか、全校的な配慮・工夫・緊張感が必要である。	限られた施設設備の有効活用と災害時の対応	さらなる児童生徒増も見据え、限られた施設設備をどのように有効活用していくか、災害時の対応も含めて計画的に検討する。 【管理職、企画委】	令和6年度に向け、施設設備の適切な活用計画(教室配置、等)が策定できたか。	教室を簡易パーテーションで分ける等をして、令和6年度に向けた適切な教室に対応できるような準備を行った。	B	教室の簡易パーテーション等の工夫をもとに、次年度のクラス運営上の教室配置を検討する。また、多くの生徒の在籍の中、大規模災害時を想定した訓練も丁寧に行っていく必要がある。
	大規模災害時を想定し、引き続き、計画的な訓練を行うとともに、登下校時の対応について検討を進める必要がある。	昨年度からの学校研究を踏まえた、物理的環境整備・言語的環境整備と効果的な視覚支援	昨年度からの研究をさらに深めるとともに、その内容を教室の物理的環境整備や言語的環境整備に反映させる。 【各学部、研究部】	70%の教室で、机・ロッカー等の配置の工夫、掲示物の精選やわかりやすい掲示、適切で効果的な視覚支援を進めることができたか。	各学部研修の取り組みを通じて、ほとんどの教室で、机・ロッカー等の配置の工夫、掲示物の精選や分かりやすい掲示、適切で効果的な視覚支援を進めることができた。	A	環境整備や視覚支援については、学部研修を通じて、進めることができたが、さらに構造化された環境整備について整えていくことが必要である。また学部間での共通理解も必要である。
3	「社会に開かれた教育課程の実現」の観点から、今年度スタートする学校運営協議会(コミュニティスクール)をうまく活用し、情報発信や外部資源の活用を進めていく。	学校運営評議会(コミュニティスクール)の導入とその活用	学校運営協議会において、情報発信や外部資源の活用について、新たな取組を企画する。 【管理職、企画委、その他】	学校運営評議会と学校が連動して、1~2つ、新たな取組を企画できたか。	学校運営評議会の協力を得て、高等部体育の授業で外部資源の活用を行い、有意義な実践ができた。今後も検討するべき案件ができていく。	B	学校運営評議会の意見や近隣の団体や人脈の協力を得ながら、外部資源を活用し、より効果的な教育を実践していく。
	また、本校・分校の生徒会の活動・交流を促進する。 新型コロナで抑制していた学校間交流を活性化させる必要がある。	さいたま西分校との交流促進 近隣小中学校との学校間交流促進	さいたま西分校との生徒会交流を進める。 【高等部】 指扇北小、指扇中との学校間交流を活性化させる。 【小中学部】	さいたま西分校との生徒会交流が複数回できたか。 近隣小中学校との学校間交流が複数回実施できたか。	さいたま西分校との生徒会交流を2回実施することができた。 近隣小中学校との学校間交流を複数回実施することができた。	A	さいたま西分校と本校との生徒会交流を引き続き行っていく。 近隣の学校間交流を対面も含めて、効果的な実施方法を検討する。

学校関係者評価	実施日 令和6年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>ICT機器を活用した学習支援に関して、特に、不登校となっている家庭にたいして、Meetを活用して、学習支援だけでなく、学校と家庭をつなぐ場として活用されているということが良いと感じる。また、保護者が社会から取り残されないように、家庭と社会とのつながりについて、担任から情報提供を伝え、支えているということが良い。今後は、各区にある支援センターの活用についても情報を提供し、学校と家庭と福祉が更なる連携が進むことに期待したい。</p> <p>県議会において、県立の空いた学校の跡地を活用した特別支援学校の設置について、教育長より発言があった。このことを踏まえ、今後も過密解消に向けた取り組みとして、新たな特別支援学校の設置について、積極的に県へ働きかけていきたい。</p> <p>大規模災害を想定した訓練や準備は大切であり、今後も有事を想定した実践的な訓練が必要である。近年は、安心安全な防災計画も大切であるが、BCP(事業継続計画)も大切な視点となっている。災害が起きたとき、学校を再開するためには何をしたらよいのかなど、「再開計画」についても考えていけるとよい。</p> <p>今年度からスタートした学校運営協議会では、高等部3年生がスペシャルアスリートとの「フロアボール」の体験をし、高等部卒業後の余暇の一助となる経験を積むことができた。今後も外部団体等の協力を得ながら、より効果的な教育を検討して欲しい。小学部は指扇北小と、中学部は指扇中と交流会を実施することができた。高等部は、生徒会を中心にさいたま西分校との交流会を行ったが、引き続き、運動会や文化祭を通して、高等部としての交流を深めるように考えていきたい。</p>